

芭蕉元祿事業 奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民俳句ポスト

平成二十七年二月度 入選句（投稿総数千二百二十一句・小中学投句数六百二十四句）

特選

しゃぼんだまふいてはじけてまたふいて 大垣市

矢島 萌々佳(小四)

この作品のすばらしいところは、「ふいてはじけてまたふいて」というリフレイン(繰り返し)の表現です。まさにしゃぼん玉をふいている様子をうまく言い当てています。

しゃぼん玉が次々と生まれ、はじける様子が目に浮かぶようです。春の光をあびて輝くしゃぼん玉、でもすぐに消えてしまう。喜びとさみしさを一瞬に感じさせるしゃぼん玉ですね。

けん玉が やつと 入った 冬の朝 大垣市 西田 千紗(小六)

けん玉を毎日、何度もなんども練習したことでしょう。やつと入ったという作者の喜びの姿が目に浮かぶようです。

けん玉遊びにもいろいろなやり方があつて、なかなか難しく集中力が必要です。練習の成果があつてよかつたですね。

季語の冬の朝が、けん玉の緊張感とあいまつて、句を引きしめていると思います。

じいちゃん の顔によく似て 福笑い 大垣市 木村 ひな胡(小六)

福笑いは、お正月の遊びの一つで新年の季語ですね。出来上がった顔が、おじいちゃんの顔に似ていたという楽しい作品です。みんなの笑顔とにぎやかなお正月の様子が想像されます。

福笑いの句は、たくさんありましたが、じいちゃんの顔によく似ていたというほのぼのとした家族の様子が感じられてよいです。下五の福笑いが、遊びと家族の笑いの掛け言葉のようで良いと思います。

秀逸

雪だるま 運動場にひっそりと 大垣市 丸井 北斗(小六)

雪うさぎいきてるみたい あそぼうよ 大垣市 吉岡 優風(小四)

どこいくの風にゆられて 春帽子 大垣市 長谷川 ななほ(小四)

かじかむ手母がにぎって 赤くなる 大垣市 木村 ひな胡(小六)

地球から 小さないのちふきのとう 大垣市 松岡 祐里奈(小五)

ばあちゃん 作ったマフラー 温かい 大垣市 川瀬 もあ(小三)

えほうまき しくかに食べてねがいごと 大垣市 大橋 琉生(小三)

ブロッコリー おなべのおふろで おどってる 大垣市 中嶋 羽衣音(小三)

雪積り地面のキャンバス そめていく 大垣市 本郷 李怜(小五)

ふきのとう 空に向かって せのびする 大垣市 立神 花芽里(小五)

入選

一言が心に残る年賀状 大垣市 田中 琉聖(小六)

寒げいこ気合いを入れて挑戦だ 大垣市 堀口 立起(小六)

お兄ちゃん入学しけんがんぼって 大垣市 大澤 志保(小四)

たんぼぼの明りがついた通学路 大垣市 西脇 楓華(小五)

バレンタイン自転車こいでとどけます 大垣市 畑中 ほのか(小五)

道ばたでほほえみくぼるクローバー 大垣市 増井 陽向(小五)

春の朝やわらかな日がふんわりと 大垣市 伊藤 誠章(小五)

道の草土にへばって春を待つ 大垣市 影山 滉(小五)

毛糸編む犬にもあげるニット服 大垣市 菅野 あいり(小五)

あたたかな日ざしにわたしのんびりと 大垣市 松崎 望来(小五)

入選

ひなまつりみんなでかざって写真とる 大垣市 瀬口 愛以花(小四)

鳥の巣をのぞいてみたらつつかれた 大垣市 長坂 あやか(小四)

山々が霧の白さでかくれんぼ 多治見市 長谷川 愛里(小五)

風花がはるか山から届けられ 大垣市 五島 夕貴恵(小五)

ひつじどし迎えるぼくは年男 大垣市 三輪 一翔(小六)

つくしんぼ土の中からもういいか 大垣市 加藤 悠花(小三)

友の顔思いうかべてがじょう書く 大垣市 大久保 実咲(小三)

なべたべるかぞくそろってあたたまる 大垣市 堀井 咲希(小五)

雪ふる日道が消えてく登下校 大垣市 馬淵 裕輔(小五)

スキーして銀の世界にダイビング 大垣市 高橋 百子(小五)

選者吟

真青なる空引き寄せて梅ひらく

みさ子